

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙「みらい」  
NO. 3903  
18年11月2日(金)  
Fax 095-828-1953

## 天皇制考、3千個の酒樽と10連休

おはようございます。

来年の三月に天皇が退位し、元号も変わる。政府はこの践踏で、来年五月に祝賀の意味で十連休とすると決めた。休みは嬉しいが、それも月給制社員の話だ。時給制賃金の契約社員は休むと賃金はない。十連休では手取りが減り、大問題だ。労組も取組みが必要だ。

近代で天皇が政治の歴史に登場するのは明治からである。鎌倉幕府以降の七百年間、天皇は政治的実権を失い、名目だけの存在となる。そして、江戸時代の初めに、それを決定的とする大事件が起きる。

江戸の三代将軍・家光は、天皇の石高(俸禄・給与)を二万石とする。額は貧乏な大名程度である。ちなみに徳川家は七百万石だから、その差は歴然だ。



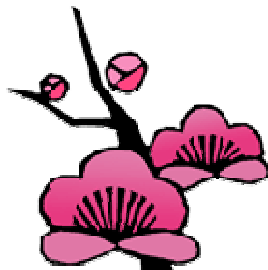
正天皇で七歳の子供)だったことから、男子専制社会の幕府は怒った。

しかし、明正

天皇が二代将軍・秀忠の孫であったことから、踐祚は承認される。しかし、その後一四〇年間、天皇は幕末まで、実権を全く失い、国の政治の表舞台から姿を消す。

さら幕府は「紫衣事件」で天皇による高僧への紫色の衣を許可する権限を授与権も奪つ。紫は天子の色とされ、家臣らが紫の衣を着ることが許されなかったが、天皇の許可で一部の高僧にこれを許す特権があり、この認可権で天皇は財政的基盤を有していて、この特権は財政の命綱だったのだ。

だがそのときの天皇であった後水之尾天皇は、幕府の政策を不満として、突然退位をする。この行為は幕府への抗議で「にわかのご譲位」と呼ばれる大事件となる。



しかし幕府の海禁(鎖国)政策は、おりからの産業革命の世界の波に抗せず、開国から明治維新へと時代が変わる。

これは幕府自身の財政破たん、開国による自由貿易経済環境の大変化(いき詰まり)に起因する。この時代、国内は輸出による米や生糸などの物資不足に伴う大インフレーションが進行し、維新前後の一〇年間で、物価は六倍に

はねあがる。また生活苦から国民の怒りが爆発し、一揆が維新前後の数年間で三〇〇件も起きる。

社会の変革(明治維新)は最下層の民衆の反乱が根底にあったのだ。

そして明治維新、東京遷都で、天皇が江戸に移るが、江戸の町民は「上様」は將軍のことであり、天皇のことなど知らない。



新政府は、町民の生活苦の慰撫政策として、天皇の名前で江戸の名前に酒樽三〇〇〇個を配り、

## 地区労大会開く

10月20日(土)に第70回地区労定期大会が市内の勤労福祉会館で開かれました。郵政ユニオンからは御手洗青年部長が引き続き執行委員(青年部長)として任務に就きました。ご苦労様です。



人気取りをする。おかげで酒が配られた明治元年十一月六日、七日の江戸はお祭り騒ぎだったと、歴史本は書く(小学館「日本の歴史」)。

町民にとつても、生活苦を押しつける江戸の將軍より、酒を振る舞う明治維新の京都の天皇がアメ(酒)をくれる人、ということでも認知されていく。

その維新政治の出発点が天皇の五箇条の御誓文である。国の統治の基本をまとめたものだが、一言でいうと、「天皇が開国・進取で四方(世界)を経営する」という世界制覇の宣言であった。



そして一九四五年の敗戦、天皇制の廃止が問題化するが、戦後の混乱期乗り切り

と、占領支配のために、連合国軍は天皇を利用する。国民統合の手段として象徴天皇で継続された。それを明記したのが新憲法である。

、今日は裏面があります。

改憲派はこれを嫌う。彼らの意図は無論九条の廃棄だが、

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。 期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。 めどせ、均等待遇、なくそつ差別! ユニオンは労契法裁判に勝利するまで!

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-御手洗, 2集-向井, 3集-山田, 郵便-山口 ゆうちよ銀-上筋, 東-, 他支部・分会の役員へ。

次はこの象徴制天皇制に標的がある。開催中の国会での代表質問で自民党の稲田元防衛省は、「この五箇条の御誓文を評価し、国の基本と説く。また文部大臣も教育勅語を賛美する。」



自民党にとつての天皇制は、戦後憲法の象徴制ではなく、

明治や戦前の、大日本帝国憲法下の国家元首としての天皇であり、世界のトップとしての天皇である。このために現在、自民党の国民会議派の極右の政治家には、日々このように天皇を政治利用してくる。

現在の天皇と元号は一世一元で、明治に決められ、天皇は男子だけで、亡くならない限り退位もなく、元号も変わらない、という決まりだ。

だから今度の退位(譲位)は、日本史上、実に四〇〇年ぶりの天皇制を揺らす出来事で、紫衣事件以来、「にわかのご譲位」の大事事件なのだ。

四〇〇年前の後水之尾天皇の突然の退位が、幕府への抗

議だったように、今年の平成天皇の突然の退位宣言は、いかなる事由によるものだろうか。退位宣言を世には年齢のためとされるが、それだけか。

現在の天皇は八四歳で戦争体験者である。先の戦争観から、靖国神社に参拝をせず、国家主義者からは「護憲派で靖国をつぶす天皇」と一部に批判されていた。批判した靖国神社の宮司は罷免されたが、退位はこれらと無関係なのが皇室に詳しくないので背景はわからないが。

そして、天皇の交代(踐祚)である。戦後生まれの五十九歳で戦争を知らない天皇となる。戦前のような政治利用や神格化、絶対化への抵抗感はあるのだろうか。

国はこの踐祚の祝賀と称して、今度は明治維新の三千樽の「酒」に代わる十連休という「アメ」を国民に振る舞う。国民にとつて「この代償は、明治のそれと同じく、天皇の神格化と国家主義の定着の攻撃でもある。

歴史をいえば、明治維新の



最初の仕事は、太政官布告による祭政一致(神道の国教化と天皇の神格化、廃仏毀釈)の破壊。キリシタン弾圧であり、浦上では多くの信者が流刑され、殺された。

旧習を打ち破る明治維新の新时代という五箇条の御誓文は、天皇の神格化(旧習の復活)であった。



以前、森首相が「日本は神の国」と天皇の神格化を口にした。「日本は神の国」としてキリシタン弾圧を始めた豊臣秀吉の再来ではない。神格化は現在の出来事なのだ。国会の代表質問での稲田前防衛省の五箇条後誓文引用などは、天皇の神格化へつながっている。

また先日、天皇の孫(年間七百万円弱の手当が出ていた)が結婚し、皇族を離れることで一億円の一時金が出た。

憲法の第八十八条には、すべて皇室財産は、国に属する。すべて皇室の費用は、予算に計上して国会の議決を経なければならぬ」とある。

現在の皇室費は年間六十億円ほどだ(ほかに宮内庁の予算などで二百億円がある)。天皇家には内廷費(天皇家の生活費)として、年間三億円ほどが出される。無税で渡しきり、領収書なし、余つても返済不要で、天皇家が投資などで蓄財されているという。もとはといえば私たちが納めた税金である。

天皇の神格化と偉大さを表す言葉に万世一系という言葉があるが、日本書紀によつても直系に疑問がつく人が幾人もいる。

南北朝はその典型だ。国家主義の「大日本史」の水戸黄門や、「日本外史」を書いた頼山陽も、南朝が正統として、足利尊氏を賊軍として、楠正成らを正義の人とする。明治政府は皇居の前に銅像まで作つた。しかし正しくは、南北朝の

後半の天皇は北朝であり、明治天皇も北朝の後裔である。また人の命はすべて親があり、子がある。すべて万世一系なのである。



現行憲法下での国の基本は「君が代」ではなく、「民が世」の国民主権である。天皇の踐祚と神格化で一気に国家主義が高まることは、まさに歴史の反動であり、平成維新ではない。やはり、天皇制、再考の要がある。

ある。

世界的には天皇は王の上位の皇帝とされる。一九七五年に昭和天皇が欧米を訪問したとき、外国のマスコミは「かつて欧州には皇帝がたくさんいたが、今はいない。今世界に残る皇帝はイラン、エチオピアと日本である」と書いた。それから五〇年、エチオピアもイランも皇帝はいない。いまや世界に王政はあるが、皇帝と元号制を持つ国は、日本だけだ。

現行憲法下での国の基本は「君が代」ではなく、「民が世」の国民主権である。天皇の踐祚と神格化で一気に国家主義が高まることは、まさに歴史の反動であり、平成維新ではない。やはり、天皇制、再考の要がある。

